

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH224
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 4
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	畑山 元政
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	肘部から手指部までの脱臼と軟部組織損傷の特徴・症状・治療法（整復法，固定法，後療法，指導管理）の概要を学ぶ。 肘部から手指部の脱臼と軟部組織損傷に対する柔道整復師による非観血（保存）療法の独自性の技術を後療法を中心に教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師が接骨院で行う肘部から手指部の脱臼と軟部組織損傷の施術について，長年接骨院に勤務し患者をみてきた柔道整復師が施術経験と知識を活かして講義する。
到達目標	・肘から指尖までの脱臼および軟部組織損傷に関する基本概念を理解し，その知識から適切な治療を実践できる能力を身につける。また，最新の医療技術に関心と理解を示し，専門的な研究や実践教育で開発された成果をもとに，科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を備えることができる。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識と技術を修得し，外傷施術を科学する探究心を涵養し地域医療に貢献できる」ことを実現できるよう柔道整復の基本的な知識を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス，肘関節・前腕部の機能解剖（骨格，関節，筋） 第2回 肘関節・前腕部の機能解剖（神経，体表解剖），演習問題 第3回 肘関節の脱臼（前腕両骨脱臼，橈骨頭単独脱臼） 第4回 肘関節の脱臼（肘内障），肘関節部の軟部組織損傷（靭帯の損傷，野球肘，テニス肘） 第5回 肘関節部の軟部組織損傷（その他の疾患），前腕部の軟部組織損傷（前腕コンパートメント症候群，腱交叉症候群） 第6回 前腕部の軟部組織損傷（末梢神経障害） 第7回 理解度の確認（演習問題） 第8回 手関節・手指部の機能解剖，演習問題 第9回 手関節部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼～月状骨脱臼），手関節部の軟部組織損傷（TFCC損傷） 第10回 手関節部の軟部組織損傷（ド・ケルバン病，末梢神経損傷） 第11回 手関節部の軟部組織損傷（キーンベック病，マーデルング変形），手根中手関節の脱臼 第12回 中手指節関節，指節間関節脱臼の脱臼（第1指中手指節関節脱臼～遠位指節間関節脱臼） 第13回 手部・指部の軟部組織損傷（腱・靭帯の損傷） 第14回 手部・指部の軟部組織損傷（その他の手指部の変性疾患および変形） 第15回 理解度の確認，まとめ
授業の進め方	教科書に沿って講義する。随時視覚教材を使用し解説していくことで，知識の研鑽を行えるよう進めていく。また，必要に応じて資料等の配布を行う。各部位の機能解剖を学び，授業の進行にあわせて損傷の特徴，発生機序，症状，治療法等について理解させる。授業内で学生への質問も行う予定なので，積極的な授業態度が期待される。 課題学修は，事前に提示された期日までに提出することを基本とする。
能動的な学びの実施	該当しない

授業時間外の学修	予習：各回，教科書の該当箇所の通読を行うこと。(各回1時間) 復習：配布資料や授業中書き留めたメモをまとめ，独自の講義ノートを作成すること。(45時間)
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，公益社団法人全国柔道整復学校協会・教科書委員会編，柔道整復学・理論編改訂第7版，南江堂 / 柔道整復学・実技編改訂第2版，南江堂 / 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，岸清・石塚寛編，解剖学改訂2版，医歯薬出版株式会社 / 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，齋藤宏・鴨下博著，運動学改訂3版，医歯薬出版株式会社
成績評価方法と基準	定期試験(80%) + 小テスト(20%)
課題等に対するフィードバック	小テストの答えは返却して解答解説を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本科目は柔道整復師国家試験の受験資格取得にとって必要であるため必ず履修すること。 授業の進行により内容が変更されることもあるので留意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法と基準 授業中の課題60%と期末テスト40%で評価する。